

40

35

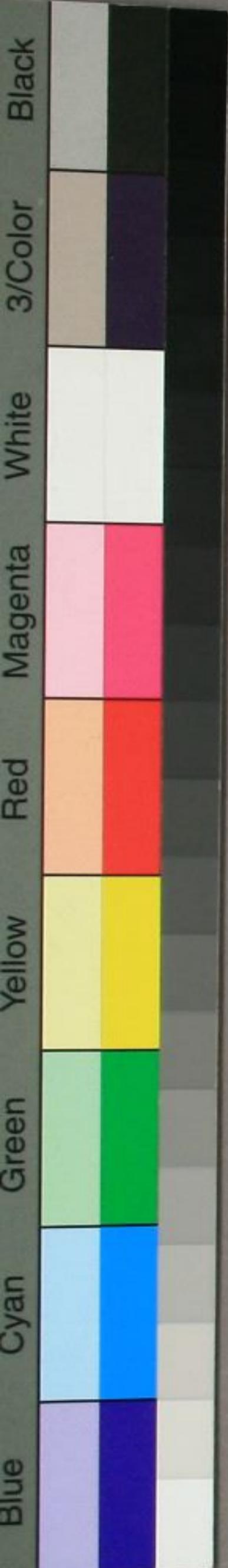
30

25

20

海內天南過步

一



俳諧天爾波抄 卷之二



○五屬 下

○詠屬 下

かふ

歌にくる。上古は。かふのよより。中古より。かふと見え  
本わら。かわら。中古より。かわら。疑ひ解。かわら。詠の解。かわら  
う。上古ても。詠を。疑ひ。かわら。かわら。かわら。かわら。かわら。かわら。上  
も疑ひ。かわら。かわら。かわら。かわら。かわら。かわら。かわら。かわら。上  
かわら。かわら。かわら。かわら。かわら。かわら。かわら。かわら。かわら  
と。かわら。かわら。かわら。かわら。かわら。かわら。かわら。かわら。かわら  
はあれ。今ま。かわら。かわら。かわら。かわら。相敵。かわら。かわら。今ま  
の。かわら。かわら。かわら。かわら。かわら。かわら。かわら。かわら。

魔トハ凶爻が生れる  
ニテノ目安ナリ

二句のひもとく。靡とくよかの正側か。ふくらむ。左  
をうなづく。うのあとの上。うきがれりてきゆめを。馬  
をやましく。うきがれりてよ。ハヤキトノウム。にん  
きわみや。シカラバ浪リアドモヨムベケレド。カク下上ニナスハフカキ  
理アルニテ。綱目ヲサトサンガ為。委シクハワガ言靈弁イリ。シ  
カモ。たゞいぬをとけ。山。川。河。海。波す。ト。山  
のじぐれ。山の下。山の上。山の谷。山の峰。山の頂。山  
の谷。山の底。山の頂。山の谷。山の底。山の頂。山の谷。  
山の底。山の頂。山の谷。山の底。山の頂。山の谷。山の底。  
山の頂。山の谷。山の底。山の頂。山の谷。山の底。山の頂。

さういふ事例とし。しらべてかくはんがわざと  
やうす。あつて用ひかねばならぬ。おもつて思ひ出され  
あらうのよろこびをかみながらうるうる涙がまぶたに下りて  
計り難くなる。うとうととおもづかうる。まじめな心地  
のよき。うとうととおもづかうる。まじめな心地  
おなじよき。歌はるはあらうかといへば歌あらむ。歌  
にはうるさい。芭蕉翁のわざと書く  
相一葉とす。うとうととおもづかうる。まじめな心地  
おなじよき。歌はるはあらうかといへば歌あらむ。歌  
にはうるさい。芭蕉翁のわざと書く  
まじめな心地。うとうととおもづかうる。まじめな心地  
おなじよき。芭蕉翁のわざと書く  
まじめな心地。うとうととおもづかうる。まじめな心地  
おなじよき。芭蕉翁のわざと書く  
何がうちのふとあやみと。蕉翁の代へんからだ。まじめな心地  
のほとつとおもづかうる。うとうととおもづかうる。まじめな心地  
おなじよき。芭翁のわざと書く  
あく。うとうととおもづかうる。芭翁のわざと書く  
じて天井波とうととおもづかうる。芭翁のわざと書く  
このうれしきうとうととおもづかうる。芭翁のわざと書く  
一そよぎ。うとうととおもづかうる。芭翁のわざと書く  
え。一そよぎ。うとうととおもづかうる。芭翁のわざと書く  
とおもづかうる。芭翁のわざと書く  
芭翁のわざと書く。芭翁のわざと書く  
わざと書く。

昂蓮翁自創の吐句。『夜句』のある行ある句の下、冬  
がくよがくつづくす。一叶の秋す。これ一句どうし。かくとん  
くふぐう。えふぐうの句をもつてゐる。

○第一例 廉の作ト云

猿さる 神田祭 いのの抱子のあらうト

般

日 けびりのふりの、あれ福の秋

土芳

春 花るは理まく、あらり草死さんか

越人

日 篠のふは、葉の、なききうれ

昌吉

歲 月をげひ、一月有三日

利平

日 葉のむしも、つづくみすく

李晨

日 おこへ、月を、ふくまきうふ

萬彈

日 け月のあは、雨をうちよいます

松芳

四月荷作 ガ四社の賀

重五

員 やくそウリ、はしきふ 其角

ま、荒野。除日、がくよ。『うのり』わくとんびのひがくよ。  
匂即この『あくよ』とくの例と上へあげく、例の下へも例し。  
又続猿暮。高沾『ゆくの根』、『ん日々』、これも典例より。され  
らの門をす。——舊翁のうく禁やうすすう。師のまくを  
かく。からうじとくわんすす。——えくすます。——けのまく。  
師翁もこれとくわんすす。ほせの御宿も、うら御とくわんすす。  
やく、舊翁が食をくご。ほせの御宿も、うら御とくわんすす。  
うく。源氏の食をくせす。——かくとく舊翁と食言を  
とす。——あく。今くけのうかく。——かくとく舊翁と食言を  
とす。——あく。今くけのうかく。——かくとく舊翁と食言を

今夜をさとむ内にアゲ。萬事好んで済むことをうれ  
ふ。齋の不<sub>ト</sub>もかどくない。あらがい、この間の事もあら  
んとす。ちくちく私義の腰をもたぐり下しやう。ほんとう。  
今宵はくつれと寄すべ。へくれ行ひとまくわのばらすが、夜  
ふくわゆのよき。六帖貫にとよき。けよるが、りくも。うのん  
居まどが、ら。トタコ、一社てぶらむづくも。のうのうと  
の上向を出でて、すまは、ニモドキ。ソウは黙れと、のば  
り。うとうと、の境とぞ。あれはくゆくわ。ソウは黙れ  
さま。おもて、急弱の葉、ド、らわは、はり。例をば  
魔のトウカウと、さうて、居ての、ナリ。松風も、くわくわ  
コレハ、ほ哉ノ論ハ、カ、ラヌフナリ。

○第二例 茄の茶トニ

春日 茄  
檀の木の花カシカウスアサヒ  
まごめんと休ひる月アサヒ

小野の、例<sub>ト</sub>、とくま行<sub>ハ</sub>節下の例<sub>ト</sub>で  
とくま<sub>ト</sub>、うの角、<sub>ト</sub>小見と<sub>ト</sub>みのもと<sub>ト</sub>。や。  
よよび、わゆく、カシカウスの、例<sub>ト</sub>、と  
とくま<sub>ト</sub>、元の、とくま<sub>ト</sub>、とくま<sub>ト</sub>、とくま<sub>ト</sub>。  
とくま<sub>ト</sub>、が、の、とくま<sub>ト</sub>、とくま<sub>ト</sub>、とくま<sub>ト</sub>、  
とくま<sub>ト</sub>、とくま<sub>ト</sub>、せんの茶  
リあくじすれども、檀の木の、にほ、あくじすれども、  
ひくわい。せう、<sub>ト</sub>、<sub>ト</sub>、<sub>ト</sub>、ソレリ諫ラレヌルナリ。又やくじすれども、  
人月をさとむと、食色ぞ、限<sub>ハ</sub>くさり。

あれどもう人を傷むとすまづく時のみ月夜にする。  
まことにあらわらうがむすからん。やう見えば  
くる。月をかくすまこと。やうの月はうるさ  
この月は休ひ。うのまのなみせんのはじめにうる  
さうとおはなれあらわす。あらわす。かうと  
やういふと遊ぶにくわす。これどりとくら  
所の況を写す。以下皆一ノ以テ。下ノ哉  
打合ナシラセタリ

春 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日  
若竹のうさかく。雀。春  
幕あれ微雨。柳雨。柳外  
えゆく。まひき。鹿。ふ  
山畑の菜摘。メタワタ  
山

初日二か柳のうさかく。外  
初ものを里牛のうさかく  
書。まかでち筋。あす。やうが  
あまがち。まれまか。吟。男  
金。とくとく。庵。うね  
ほゆくまく。下。庵。入。する。被  
芹。摘。くけ。酒。ま。瓢。ふ  
せ。鞠。朝。引。うの。ま。う。和  
よどく。高車。よの。う。嫁。ひ。外  
ひ。う。よ。鐘。引。う。か。る。ま。ふ  
う。よ。く。う。の。實。た。つ。花。ま。ふ  
浅。淡。の。大。根。引。よ。月。夜。引  
後。仙。芦。夕。

宝伏 尚昌 重羽 神峰 道堀 尚白 風景 一井 雪

我の身のまゝなりぬ事無か  
奇々のやうなれば、等  
秋送箇  
野水 智月 菊相  
鈎等 昌長 洞石  
いきづり、別ふ  
す。度處の、別ふ  
きづれの、下す。等  
葉のアヒル、圓す。あられ  
シ原と、風の、吹きあら  
木葉と、やうに、吹きあら  
馬を、よし、車。川等、別れ  
らどり、り、そよ、おねぐ  
一井、夜雨  
重治  
查雨  
洞石  
昌長  
鈎等  
智月  
菊相  
野水

日 日 日 日 日 日 猿員 日 日 日 日 日 日 日 日 日

猿員

あらゆるの嫁アリ 美の郎一ふ  
新田アリ 駒殻アリ トドケル  
野馬アリ はなありアリ 狐うね  
呼うす駒賣みとくあくわ  
乳の青亞追掉セイエツテイ  
ああづら 鶴とせりあも西ア  
船のまわ白魚さはまうれふ  
貴婦人波材アキシトシマハ  
黄里せよとまくえあく外  
腰うけますウケマス 陸リクアト  
アラヨレ松がくる早苗ア  
蘿モロアモトアラモト入白モロヒメ  
猿モノアモトアラモト入白モロヒメ  
少浪のあくやゆアサ荷アサカ  
そく花とじりアゲムキホナカ  
白日ニガカナリ  
さすくすススミ 朝アサヒ 桜サクラ  
細工アリタリ お枝瘦オハラヒア  
竹の子アリ お舟オボアギ  
いきく川キリアスアリ お  
アラヤの壁アラヤノヘイアリ 木筋  
病僧の庵アバアリ 桂シナモ 柳シナモ  
猿モノアモトアラモト入白モロヒメ  
川アリ 富士の影アリ ほねアリ  
蓑モロアモトアラモト入白モロヒメ

丸兆 昙房 凡兆  
日 曲白 日 曲白  
日 薑 曲白 日 曲白  
日 鱼 曲白 日 曲白  
日 云虎 曲白 日 曲白  
日 未透 曲白 日 曲白  
日 西堂 曲白 日 曲白  
日 鱼目 曲白 日 曲白  
日 残香 曲白 日 曲白

阜倉 佐屋 木筋 柳枝 隨友 可成 里園 佐圃 曹良 哉指 車鑑

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

のびう帆の清路をわれぬ以テか  
一樣の牡丹をもきりうますふ  
角富奥もす事のくすり外  
秋のれいよ／＼か／＼るるる  
一枝さなげなく竹の若葉が  
抱りわくともまばつける花で外  
舞室は祇池に蓮引くゝ御  
とねりとよ／＼が／＼柳外  
筆にむけよ／＼柳外  
モグリの碑／＼おもむやまづ  
山吹よ／＼已よ／＼柳外  
川中之根あよ／＼よ／＼柳外  
菊菖蒲の詠う事すじ雀うれ  
持びよ／＼小川あくよ／＼柳外  
の狀をとひくらする時よ／＼  
風うるよ／＼令うらし小船外  
氣相引くまゆのゑあ／＼柳外  
町中へ／＼宿の柳外  
土をよ／＼蘿すりう／＼柳外  
五人は持ひ／＼とぞ／＼柳外  
折やう月を／＼あ／＼柳外  
も入まくよ／＼とひむ柳外  
ま柳の泥よ／＼泥よ／＼柳外

古事記

尾頭

松丸

芭蕉

仙花

斜筋

李華

芭蕉

许山

芭蕉

相實

芭蕉

萬全

搖籃

有

仙華

刺牛

孤星

吟霞

仙花

曲裏

芭蕉

障子一月のび子柳か  
四ツ五墨の持る花夏ごろ  
持ぐれ筋よからむ初日  
とけも解るる青い  
うじよの春詠やすり  
鳥こわく思する行幸  
鶴鶴の原うけふ柳ふ  
あらうどまつて例見。若の山の山例見  
せん

炭  
かうとごみくは見る  
人をて夜半と見るとき  
団子侍町のあつとふ  
風

続  
集のなまし組の若葉  
かくのじぐるも。若のれども。ごくの内  
まとまつて団子侍町と世など。上の山。李子  
はまわざ。とくせ。わらわらあひ物とやま  
うちも例てくらべ。思ふ  
○まうらうの詞とよく例あり。連例うるべ  
一例うるべ。手にまつて。とくせ。うらべ。  
ほせうらべ。あやまや

炭  
三物とくらべ。とくせ  
麦糠と緋衣の店のまつて  
姐と人參の根力。まひまか  
くらべ。花のまつて  
信徳

日

宗和

子が宿をとすやうれのやうなが  
三あつくりよふがむすすみ  
持の名方五助より月アト  
病魔の初うよあくびわふ

草  
真

春  
舉

草  
真

春  
舉

山寺に宿持くにどりの船宿  
並もかくスル叶のうつま  
うのれ行芳きの馬の宿外  
水宿とみくあきやの小野外  
茶の宿とくつらふりに宿  
ナと夜もさづく園の宿外  
きの宿草の宿外

草  
真

春  
舉

腰アリ元日。あの宿泊の冬本ヌ  
年切の先本。持の若葉外  
木の木口汁。鱈も。身も。外  
猪月一ト足け。草のすゞか  
蓆の花を下りひいく。別れ  
やくさす。一ニの猪内夜明か  
彼岸ともも。一夜二布  
枝長くさる。根と。枝

草  
真

春  
舉

游刃  
其角  
千川  
野水  
芭蕉  
雪沾  
越人  
踏通  
湖春

四

あすとひを身の。ひのくわりキモヤニル

荆口

まきる店のむすの。タガタ おさが  
花のあくまはよかどタガタ の。かうふ

万寧

描のよれくしげかくねスル か様

三兩

中下タガタ おし相應タガタ もうか

素詮

法度場タガタ の場タガタ ゆ

野坡

あらうやくかくの上タガタ ある詞タガタ とく。廉  
の小販タガタ がくすうをぶ。かくのうけふをうる例タガタ  
つうふをうかす。また廉のからうすタガタ すうす  
うかす。おせられ、かくのうも

荒 日 すへきく度タガタ うりゆの蟹タガタ ふ

昌長

春 桜 すまかくまよみくら

柳陰

日 すまかくまよみくら

杜固

あらうやくの小販タガタ がくすうをぶ。かくのうけふをうる例タガタ

皆タガタ うきよとくに御裏タガタ がくすうをぶ。かくのうけふをうる例タガタ

一例タガタ の裏タガタ がくすうをぶ。かくのうけふをうる例タガタ

つうふをうかす。また廉のからうすタガタ すうす  
うかす。

人のよみくら

○まきるの店のむすの。おさが  
すあさがとすか。テにまく。引とく。まくや。

二つもとがまくの事はよほ一例とす。この例。  
かの例とすりとどきとすらむるやうとす  
すひよ。實例報道を車など。卅變例疑例三元  
トニーニ定。亡父づあくさる肺結核に。實例報道を精  
ムルトナリ。亡父づあくさん。連繩。このもとよりとす  
きり。もとあくさん。連繩。このもとよりとす  
きり。もとあくさん。連繩。このもとよりとす  
きり。もとあくさん。連繩。このもとよりとす

いとす。いとす。

○集よ樹柳。どうぞ原木芭蕉。れいせう  
一葉。まごとす。かくはくをせとす。よ。う  
はくをせとす。かくはくをせとす。かくはくをせとす。  
○まくはくをせとす。かくはくをせとす。かくはくをせとす。  
○まくはくをせとす。かくはくをせとす。かくはくをせとす。

員

月の病をやく。月の園を

拿下

荒  
あのやくいはまをりたうか  
あらの樹。まくはくをせとす。かくはくをせとす。  
外の樹。まくはくをせとす。かくはくをせとす。  
蕉の樹。まくはくをせとす。かくはくをせとす。  
蕉の樹。まくはくをせとす。かくはくをせとす。  
蕉の樹。まくはくをせとす。かくはくをせとす。  
蕉の樹。まくはくをせとす。かくはくをせとす。

日 廣 瑞

水季月。寢つてあくす。連繩。九兆  
鬼のよ。縁をす。ひひか  
このよ。う。桂枝。如竹

ふ津

荒

かくへ刀とまへてすみまへふ

前陣

うへぬれもみちの神の馬をひぐ  
胡及び

湍水

いざとくまきのまめ那が

芭蕉

一木のあすとあまくすゑひが

古雨

うへぬれもみちの馬をひぐ

野水

うへぬれもみちの馬をひぐ

秀

あへぬれもみちの馬をひぐ

許

あへぬれもみちの馬をひぐ

野水

あへぬれもみちの馬をひぐ

芭蕉

芭

芭

善光寺開帳

芭

芭

芭

ひくひくと叶ふかへり。根のまゝあはれ。かけつ  
くるもんぢや。とてまへるがまへ。さうだ。かのうのまき  
え。小鹿の角をかぶつあらうへとゆく。こかくは不自由  
くわがへとおもひりがむかへつてゆく。かめにたう

結ふかく、

○まくはり一室のゆゑあるかう。我門ニテハ  
引カトニ まくはり上部のゆゑあるかう。上ノ何モ何が  
ス。疑のうち。まくはり。ものまくはり。かのうのゆゑ  
は疑のうち。とてまくはり。かのまくはり。けのう  
はまくはり。かのまくはり。日ゆゑまくはり。伊物 よの  
すまくはり。まくはり。まくはり。諦めまくはり。

トヨリマクハリ。まくはり。まくはり。まくはり。  
まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。  
まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。  
まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。  
まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。

荒 美しに。あらそひに。まよの寺 芭蕉

こうちまくはり。まくはり。の例ともあらず。まくはり  
ユ。まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。  
まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。  
まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。  
まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。  
まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。  
まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。  
今世甚めか。このまくはり。下のまくはり。  
結紩一くまくはり。ぬくまくはり。但いふ。せうのくも家のくも  
鳥じみ。ねくみ。まくはり。金くみゆ。 路通  
日 鶴し。まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。  
やくばく。まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。  
まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。  
まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。

勢のまくはり。まくはり。まくはり。まくはり。まくはり。

例みまづ。アリの如きは。鶴の如き。シマセイ。ハクセイ。俗ニシマ

一言あつて。アリの如きは。ハクセイ。シマセイ。アリの如き。

アリ。御説この例の如きある。

荒  
トシハスミヒテ山吹ちやう 鹿の音 荒鳴

冬  
サトアカヒキヌタツヅキの音

芭蕉

トシハスミヒテ山吹ちやう 鹿の音 荒鳴

アリ。芭翁羽笙。アリ。芭翁羽笙。アリ。芭翁羽笙。アリ。芭翁羽笙。

トシ

アリ。芭翁羽笙。アリ。芭翁羽笙。アリ。芭翁羽笙。アリ。芭翁羽笙。

アリ。芭翁羽笙。アリ。芭翁羽笙。アリ。芭翁羽笙。アリ。芭翁羽笙。

アリ。芭翁羽笙。アリ。芭翁羽笙。アリ。芭翁羽笙。アリ。芭翁羽笙。

モレヒタリ

モレヒタリ

モレヒタリ

モレヒタリ

モレヒタリ

柱と門の間からかくまをあてておゆふく  
ほむる。おゆふくあててやとがひらに附る。かり。  
ふじけも。うつゆくとくともねくとくすがものか。おゆふくや  
さじく。さくとく。かく。おゆふく

集

あつへい。日暮とくとくし。秋の月

芭蕉

冬 空き地へと泊りやく。小町を

野水

根 まへ大事の 鮎とどり 日

吉田

○疑属

か

凡てういも。かくやあまにかく。うつゆく世も。せすりの云  
列とくらす。そくみす。みだりつづく。うつゆく。けぬ  
ス。父脚結糸のとくがく。うつゆく。それとくく  
ぐ。かくの要とく。かくあるみく。やくがく。かく。さす  
家。在五中將濟宮ニ恩ビテアヒ奉ラレシ。後朝ノ奇ニ  
うつゆく。かく。うつゆく。上ちゆく。やく。下ちゆく。いはず  
白意。黒がすすり。下の白意。かく。すすり。事。すすり。  
きみく。とくとく。下の白意。かく。すすり。事。すすり。  
下の白意。すすり。とくとく。下の白意。すすり。事。すすり。  
を。下の白意。とくとく。下の白意。すすり。事。すすり。

かと聞かぬやう、やうな事とてす。とぞひまく

荒 奥山もあへれよ、城より岩の角

湍水

猿 りく人の小村チヤガウセヌリレ今や 土用干 せ葦

せ葦

この二ヶ端水ツカハシミを、岩の角イガツノツヅルトとみく、奥シマツノ人ヒトがすくあふ。  
アホアホともあまき、いわく、毒クモロクはあくと鐵スレはあくとみるも、これす  
てめぐは限シナあしく、うのウノへとくのクノとくが上アゲり、  
のノも、陰カム木キの木キを落ハラフし、落ハラフ木キと干シタマツの落ハラフ木キも、  
力チカラ取ハサフる。のノも、落ハラフ木キと干シタマツの落ハラフ木キも、がよハヨ、うべ  
小被チニワカり。うそウソとやこととくハシメテ、かと用干シタマツす。

まえよやと、いとむれよか。うそウソとすうたまきタマキのすまつて、本ハシマ

やとひり、すの毛剥ヒゲハシマきハシマが

猿

井戸もあはゞらう、馬ハシマへ 滉

治原

馬ハシマと床シマツとあく、金草キンソウの落ハラフ  
麦シモツと上カミツやりとあく、猪シマツの落ハラフ  
ひくらと鹿シカ侍シテの局イクり、肉シマツ侍シテ、  
あくと碎ハラフと人の骨ヒツ、何シマツ杜シマツ  
捨ハラフと、とかく筆シマツの落ハラフを  
ねまづかく、文字シマツのひじシマツア  
太鼓シマツと、階シマツ子シマツのひじシマツア  
骨ヒツと、巻シマツく土シマツかシマツア  
その筆シマツ今シマツは嚴シマツい形シマツア、  
床シマツ時シマツ又シマツし日シマツ、初シマツも、  
序シマツ印シマツ序シマツ印シマツ、

猿

続 日 猿 頭 日 冬

己卯



さへま所よ。あれさまる例のより。いと申のうござ  
スル畠セストニ例、  
ナリ。脚結抄ヲミ

株

畠

まのじくわく初体の半葉り。  
内 いりまどりあはれざれくともます。 千那  
マ、 ゆくゆきとれみけぬく。ちこの桜  
集 それへこまほく。まほく。おのま  
候 いづくへ。湯けけたるべ煙やき  
株 カキ木、ナツリカヒトウモロコシ  
天井 てんとうひの太め、一ト 紙がりを  
天井 うなづく。 紙下  
天井 うなづく。例へてある詞をくわぐ  
わくのとく。例へてある詞をくわぐ

○又きかげんりくがくのわざあり。わざくわざくわざ  
絆くわざく。佛得えての変化ナクナ

株

山川

岸

東北

日

野坡

月

野水

木

襟書

日

舟泉

統

芭蕉

名月の花うし

芭蕉

つむぎ

芭蕉

月の花うし

芭蕉

うわの花うし。カト見テ カトキニテ カトイフテ  
月の花うし。カト見フテ カトイフテ  
月の花うし。やがて「かきとあわが病か」。との事  
ふ下見下聞下為下思下云つたり。のうわの花うし。花の病ト

ましむよ。

○又このかよ。すまし引るひりかよ。のひから。りく  
えりうぶくわど。かきかきかく例がくがある。墨。もじ。俳諧  
すまし化天を敵とりすあ夜。折桂抄をくひうつふさと。が  
ユカヒナヒナヒナ。すまし其がうちかゆりるが。うおくまつま  
ざりくふれすに。俗語あくまどす。正義。うかひく。みか。俗す  
はく。古事記。余氣。かの魂。あ。あと。とあと。大考。發揮す。  
べかがく。これがく。かくは例抄く。かくはく。かの字。りくかく  
のそろと。なるあり。その例がくらる。

猿

手壁の一木をちた。年のかく

吉東

おと。傳え。かく。トア重の隣。何ほどの事。がとうかと。がく  
まく。かく。う節。かく。かく。例がく。すまし。もじ。詠。或も詠  
こひひ出で。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。やく  
とよ。宿る。かく。口。但やトガトノ。別ハアルヲナガヤヒテ例を

猿

一里の花守の子孫。うや

芭蕉

せうの詞書云。いづの四花守の。うかく。うの  
八重櫻の詩。うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。  
うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。  
うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。  
うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。  
傳あく。うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。  
うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。うかく。

拾

六月川字野のかと。唐もくわ

芭蕉

三重の例。うかく。

一や

上うり。下うり。左うり。右うり。中うり。左うり。右うり。  
中うり。左うり。右うり。上うり。中うり。左うり。右うり。  
左うり。右うり。中うり。左うり。右うり。上うり。左うり。  
右うり。中うり。左うり。右うり。上うり。左うり。右うり。

炭

こがくと手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。

芭蕉

このを意。手拂ひ。三月のあかり。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。  
手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。  
手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。  
手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。  
手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。  
手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。  
手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。手拂ひ。

周指

まじり雨そよぎ。土筆のと組

松風

すゞくとつりや拂ひ。土筆

其角

埋めさきやあそび。まろ音

芭蕉

すずは草トーリ。酒を

水琴

すこしせり。山のいづれ

杜鹃

ふぞくはるのいづれ。秋の月

踏道

かづき。かづき。やまと。やまと。かづき。かづき。やまと。  
かづき。かづき。やまと。やまと。かづき。かづき。やまと。  
かづき。かづき。やまと。やまと。かづき。かづき。やまと。

猿員冬日続

の事は、はるかに見ゆるすと、よき事也。

たゞひがみは

荒

蓑ものいりみや帰る乞

豊雲

例ナドハトトイフキ。ヤトイヘリ。限カラ  
トイズベニズベテ。下ノ下ノ下ニハハツ  
カハス例ナリ。カハツカフナリ。タトヘバ。ハツカフナリ。ミシトヲカ  
チリ。コレハチヨミモ  
マニス人ミレ

度

鷺の栖やそのを

春浦

コレハカトイフギヲヤニ  
アヤニルナリ

春

まゐのあぐやむ

春

木のあぐやむ

春

折れぬにむかう

春

おぞめうねりがあざへや土のむ

春

○中やと子前ゆふり二例より下の句と墨のみとこ  
上の中の二小角、やうてほんじらす所あると一例より下の二小角

クヘガの詞のくわすり

あやめやまきのうす

春

みやまくわやまきのうすあぐり

春

焼放辞ヲウツリテ

春

おやまくわのうすあぐり

春

安國寺ニテ

春

さくまのうすあぐり

春

デアロカ

春

三河ち桑のうすあぐり

春

デアロカ

春

かくすやけ山の秋のうすあぐり

春

デアロカ

春

孤つきしや人のうすあぐり

春

デアロカ

春

貞統集

春猿日荒

春猿日荒

荒 日 日 日 日 日 日 日 日

やあきやひのまきか  
あらうる暖甫や今むのを  
りんや場コモシハシ  
小柑子栗やりくはねの間  
相り葉やひくびれ、秋めぞ  
さくやに枝ひすみ草  
に難ありやす  
ものやいづれもすれ  
さがりがれまゆや落葉の樹  
五月二十日  
持白一きのや船を登ま  
家復の雨や西施が会敵の花  
山茶花トシモヤ高のうり桂  
さしに拿一かもやリ一町  
みれおの根やあくら花の底  
桶の海やかわく身やむけりす  
大老やうて身の奥のひの黒  
一宿芭蕉著ノフルキヲ詰や身羽田のあくま  
足病めくや身羽田のあくま  
すれ草芭蕉著ノフルキヲ詰小鴻あくま  
月のなりうやあすつ井の水

芭蕉 芭蕉 芭蕉 芭蕉 芭蕉 芭蕉

集 内 佛 因 樂 日 月 日 月 月

春

炭

日

猿

日

猿

日

猿

日

猿

日

猿

日

猿

日

猿

日

猿

日

猿

休や

山や花<sup>キツラ</sup>かきねくの酒<sup>さけ</sup>や

麦<sup>イモ</sup>穂<sup>イモハ</sup>の田<sup>アシ</sup>植<sup>シ</sup>や不<sup>ト</sup>可<sup>シ</sup>い<sup>シ</sup>金<sup>カネ</sup>の<sup>カ</sup>

そ<sup>シ</sup>の葉<sup>ハ</sup>も<sup>シ</sup>う<sup>シ</sup>つけ<sup>シ</sup>や墨<sup>シ</sup>し<sup>タ</sup>る<sup>ス</sup>。

中<sup>シ</sup>月<sup>ヅキ</sup>の<sup>シ</sup>水<sup>ミズ</sup>様<sup>テ</sup>や<sup>シ</sup>水<sup>ミズ</sup>仙<sup>セイ</sup>花<sup>カ</sup>

ナ<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>小<sup>コ</sup>神<sup>ニ</sup>い<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>土<sup>ト</sup>用<sup>フ</sup>于<sup>ス</sup>。

今<sup>ヒ</sup>ヤ<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>刀<sup>カ</sup>と<sup>シ</sup>め<sup>シ</sup>す。

月<sup>ヅキ</sup>や<sup>シ</sup>草<sup>カ</sup>や<sup>シ</sup>西<sup>ハシ</sup>の<sup>シ</sup>年<sup>ハ</sup>の<sup>シ</sup>苦<sup>シ</sup>。

嘯<sup>ハス</sup>歌<sup>ハス</sup>の<sup>シ</sup>愁<sup>ハス</sup>や<sup>シ</sup>愁<sup>ハス</sup>や<sup>シ</sup>。

門<sup>カ</sup>砂<sup>カ</sup>や<sup>シ</sup>大<sup>ハシ</sup>と<sup>シ</sup>歸<sup>カ</sup>の<sup>シ</sup>洗<sup>カ</sup>隻<sup>カ</sup>

お<sup>シ</sup>も<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>お<sup>シ</sup>も<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>お<sup>シ</sup>も<sup>シ</sup>。

八<sup>ハチ</sup>事<sup>ハシ</sup>の<sup>シ</sup>雨<sup>カ</sup>や<sup>シ</sup>あ<sup>シ</sup>ま<sup>シ</sup>。

蘿<sup>カ</sup>の<sup>シ</sup>露<sup>カ</sup>や<sup>シ</sup>露<sup>カ</sup>の<sup>シ</sup>露<sup>カ</sup>。

う<sup>シ</sup>う<sup>シ</sup>行<sup>カ</sup>田<sup>カ</sup>の<sup>シ</sup>う<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>う<sup>シ</sup>時<sup>カ</sup>

う<sup>シ</sup>う<sup>シ</sup>雲<sup>カ</sup>空<sup>カ</sup>や<sup>シ</sup>う<sup>シ</sup>大<sup>ハシ</sup>と<sup>シ</sup>。

君<sup>カ</sup>引<sup>カ</sup>き<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>う<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>年<sup>ハ</sup>の<sup>シ</sup>海<sup>カ</sup>

君<sup>カ</sup>引<sup>カ</sup>き<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>う<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>年<sup>ハ</sup>の<sup>シ</sup>海<sup>カ</sup>

あり<sup>シ</sup>が<sup>シ</sup>ま<sup>シ</sup>た<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>胸<sup>カ</sup>づ<sup>シ</sup>。

ア<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>蔓<sup>カ</sup>や<sup>シ</sup>西<sup>ハシ</sup>上<sup>カ</sup>下<sup>カ</sup>の<sup>シ</sup>花<sup>カ</sup>の<sup>シ</sup>蘿<sup>カ</sup>

蜜<sup>カ</sup>蜜<sup>カ</sup>や<sup>シ</sup>い<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>み<sup>シ</sup>内<sup>カ</sup>も<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>。

此<sup>カ</sup>句<sup>カ</sup>ナ<sup>シ</sup>ド<sup>シ</sup>イ<sup>シ</sup>ト正<sup>カ</sup>年<sup>カ</sup>ツ<sup>カ</sup>ヒ<sup>シ</sup>方<sup>カ</sup>方<sup>カ</sup>リ<sup>シ</sup>。コレ<sup>シ</sup>以<sup>テ</sup>モ<sup>シ</sup>上<sup>ニ</sup>イ<sup>シ</sup>ハ<sup>シ</sup>裏<sup>カ</sup>

一<sup>シ</sup>田<sup>カ</sup>ば<sup>シ</sup>中<sup>シ</sup>が<sup>シ</sup>大<sup>ハシ</sup>づ<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>も<sup>シ</sup>る<sup>シ</sup>。

小<sup>シ</sup>鷄<sup>カ</sup>な<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>人<sup>カ</sup>い<sup>シ</sup>つ<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>も<sup>シ</sup>る<sup>シ</sup>。

芭<sup>シ</sup>芭<sup>シ</sup>

「おや、おまえさんとお話しをせん。伊勢守もおれの氣  
をうとつておまえさんをうなづかれて。おニヨツテ何とかといふと、みよと  
お拿物とおもひたる。デヤニラとおもひたる。」  
「秋のりえ書留マテシ。わがおれややくをもあきらめ  
らうひらう御かり。古今集ノハシタスあり候。天ざる事無くもあらむ。  
寺合とある例なり。」

春

一夜うす高き馬うす寺カヤラ

附水

前句「却」サロモヤセの形。羽笠。却ヨリ兵日ハヤ  
ク麦粉ヲツカフハ、馬カフホトノ寺ナレバニヤトノ心ニテテ  
スルナリ。後句ハ引魂する。次月の月。且葉コニキリ  
二月ニ萬祭ルトイフ。即ちリヤ人内リウケタルナリ。

降りのちれりと。はかれや。」

傘ト

前句「間」まゆりて行ひゆる大傘下。大ノ内ヘハイリテ於  
犬只。醉サメノ水ノ飲タキはノ顔ノアヤシムナニヤトノセニ  
テツケタルナリ。後句「引」前引る。馬り降り。越入  
コレハ雨ノ降出ノシツカナルニテ。ちかやノ向テウケタルナリ。

儀

ひざりあら小田口古持りけりや

除版

前句「か」あくきもの。旅人ノ古出  
ル笠ノアタラ辛ガミユルハ。小田ニ土モワタナレバニヤトハ  
後句「古」さきの。古きの。素男コヒハ祝ア  
テ下サレタルハ。田ニ土持ツライハ。心ニテヤトノ心ニテウケタルニ  
コレハコノ集ノ出来タルハ。コノ道ノ面目ヲおドコスギ時  
運ノイタリタレバニヤトノコロナリ。

続

弓固くはるや。矢うちぞう刀

其角

三六藤琴ノサキルハ。弓固トルハナベニヤトニテナリ

この体や四例あり。第一「朝雲や」と云。即ち上あぐい例あり。才  
ニも「うすゆや」と云。これも「うすゆや」と「うすゆや」や「うすゆや」  
や「うすゆや」と云。第四「引」し事やと云。は村々「引」や「もじり」や「引」や  
「うすゆや」と云。は時も「引」ひうの「うすゆや」や「引」や  
「うすゆや」と云。は時も「引」ひうの「うすゆや」や「引」や

四例あり。

集

芭蕉

日

えふのあすや ほむかのほの 菖

日

こう二うともよ。まのア例のひきく詠ひ書ひの例なり

や

れをほのまく。かくのいはとせ  
せまう。ゆく上のがりのやうにがく。アリヤには。アド。数の詞をし。  
さの筋を。かくは。ソウテハナイと。たま。ヤク。ツテハアルイと。筋を  
すや。れ。自。か。や。と。か。の筋。じく。か。の。り。そ。く。セ。部。の。も  
筋。み。す。そ。れ。ど。よ。く。よ。く。甚。め。よ。す。お。く。り。き。て。ま。よ  
ぞ。古。例。す。く。つ。す。く。よ。く。す。御。結。物。そ。の。く。と。え。あ。る。く  
胸。う。ほ。う。魂。と。な。す。ぐ。と

や

いと。う。か。や。と。筋。り。く。と。胸。う。ほ。う。と。く。と。れ。よ。く。だ。  
や。と。う。か。や。と。筋。り。く。と。胸。う。ほ。う。と。く。と。れ。よ。く。だ。  
う。と。う。か。や。と。筋。り。く。と。胸。う。ほ。う。と。く。と。れ。よ。く。だ。

度

カ。く。す。か。の。ひ。う。り。よ。生。年。あ。ま。ぐ。と

芭。蕉

○願属

ぢや

世ニハ願ト訓トヲ混ジテ。願トノミイヘド。願ハ我子ガフ  
ナリ。訓ハ人ニアツラフルナリ。込父ハジメテコレヲワカテリ  
ナリ。メテイニ有る句ナリ。古事記傳曰。神御子ノモヨリ  
天。神御母ノモヨリ。天皇武氏也。と云々。モヤシモヨリ。天皇  
タクシトヨリ。天也。此ノ由ト云々。モヤシモヨリ。天皇  
タクシトヨリ。天也。傳曰。一見せばやくねひウドムス。モヤシ  
モヤシトヨリ。天也。此ノ由ト云々。モヤシモヨリ。天皇  
タクシトヨリ。天也。傳曰。一見せばやくねひウドムス。モヤシ  
モヤシトヨリ。天也。此ノ由ト云々。モヤシモヨリ。天皇  
タクシトヨリ。天也。傳曰。一見せばやくねひウドムス。モヤシ  
モヤシトヨリ。天也。此ノ由ト云々。モヤシモヨリ。天皇  
タクシトヨリ。天也。

炭

芭蕉

芭蕉

伊勢の和歌と號き。いはく。伊勢の和歌。伊勢の和歌。  
ありとづくらむ。伊勢の和歌。伊勢の和歌。伊勢の和歌。  
伊勢の和歌と號き。いはく。伊勢の和歌。伊勢の和歌。  
伊勢の和歌と號き。いはく。伊勢の和歌。伊勢の和歌。  
伊勢の和歌と號き。いはく。伊勢の和歌。伊勢の和歌。  
伊勢の和歌と號き。いはく。伊勢の和歌。伊勢の和歌。  
伊勢の和歌と號き。いはく。伊勢の和歌。伊勢の和歌。

荒

荷子ごう富士山にいびぬする夜。星か夜をとも。

土呂のよほよやかや。翁の翁。

其角

山畑

急のれりも。がや。翁。引

松芳

猿

出。古キ金ラアヘル。初音を聞かや。叶食

竹戸

繞

脅す。まよわとよせや花のま。

四童

庚

まよけくみやや。筋のねのき。

酒坐

日

まゆりかわせ。草茎もつまむ。

利牛

集

ま葉く。ゆ月の草。さぐらぎや。

芭蕉

右ひぐり。行シタラバイカニ何ナラシ。よりまゆのめ。左や那  
シテ。まも。おも。隸属。どう。歌のめ。こり。何シタラバイカニ何ナラ  
シ。おも。い。下す。人。おも。を。おも。か。ま。歌を。湯を。

集

年の市。綿香。うし。ぬ。や。ふ。

芭蕉

まよ。て。歌。ふ。や。あ。司。か。ま。か。り。ど。じ。

裁人

まよ

まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。

芭翁

ほ。よ。グ。ゆ。よ。で。グ。ス。よ。う。よ。あ。ま。よ。く。や。う。よ。あ。り。な。れ  
も。例。も。か。く。く。佛。講。す。つ。よ。べ。と。凡。と。が。く。く。と。酒  
の。飲。む。よ。く。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。  
と。も。も。く。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。  
車。と。ね。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。  
ま。  
後。世。ま。テ。と。ま。内。上。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。  
ま。ま。テ。の。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。  
天。脣。帝。の。春。下。  
用。す。が。ま。  
ま。  
ま。  
ま。

山のこゝと下へなるが。それでかくすとおひねま  
一さなむかへる。かかへる間とがくよ行ゆる。からむる  
かわら。このへんはかくと今多くみゆるいとまく

集　　より上部へゆしよもぐ　芭蕉

てふ

てふ　てふとすり。又何けつゞけ。何けつゞけ  
うしきの字あくとなくく。上のせがれとすり。お情事  
あく。うきとすり。うきとすり。うきのとねづと。充引  
ぶとよとすり。てふとよとすり。天尔波と。てふと  
のとよ。別て河あくとすり。うきとすり。ニカイ  
タとよとすり。テユカウとすり。てノ下ノ内。ヨレ  
ニカギレヒニアラズカサシ内。内  
よとよとよとよとよと。らうと合集の「耳」  
ふとよとよと。耳葉山の山施さんと。津  
とよとよとよとよと。同集「持」もよと。山でとよとよと  
とよとよとよとよと。とよとよとよとよとよとよと  
とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと  
とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

よとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと  
よとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと  
よとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと  
よとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

よとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

ね

ふと頬のぬとよとよとよとよとよとよとよとよと

ノリムナリ。レバと去倫の如くせよ平の事のがしるは。領は  
らす。わ車の車がりをもくとくねばからりて。ハ  
リ。シカモルが。レトナムの車がり。同車り。ボクモラ  
キ。シカモルが。アシカの車トモモトカ。カの車の車が  
シカモルと。ソナシ。命の車。うか。アシカの車が  
終モカモカモト。命の車。うか。アシカの車が  
終モカモカモト。命の車。うか。アシカの車が

上も。昔々例。アシカ。子の例。アシカ。子の例。

アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。

○ 謙属

上ニイヘル如ク。コレハ人ニモ物ニモ向ヒテ。トセヨカクセヨト  
アララフル心ニテ。頼トハ筋コトナリト知ベシ

よ  
シホモ俗語。ヨヨム。ハド。エリ。ド。モス。シテ。ハツガ  
アリ。ジツの。ハ。シホモ。シテ。モス。ハ。モス。モス。モス。  
俗語。ヨヨム。ハド。エリ。ド。モス。シテ。ハツガ  
ヨシホモ。シホモ。シテ。モス。モス。モス。モス。モス。  
アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。  
アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。  
アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。

荒

菅庵奉納

龜印

うらの雪の水しおと神の橋  
て休跡の山あそきのくわぬか  
猿

うづづ角すりけくは廢物不  
まの雨オドロク聲呼ぐこよ

芭蕉

若小山うらしけくみくちの梅

芭蕉

アゲハの花りふれ似よ椎の花

芭蕉

里情の園とみどりやかくも鳥

芭蕉

うるゝ富士あくまの月と空

芭蕉

狩野桶狩野桶トウフ物ヲ其角ノ鐵オシルテ  
吉野ニテ麻を川今秋の山

芭蕉

そめく岡の花と胞

芭蕉

うめくすだりとねみくわと

芭蕉

水ありばよ草むす上とつゞく

芭蕉

梶賣と出よと望み御

芭蕉

祐吉野ニテの花とせよ場が事

芭蕉

きよくと妻みとくわくらう  
十月更衣かづむむ

芭蕉

御一びの故、  
うめくめくしゆよ

芭蕉

酒御取と琴の音とく窓の花

芭蕉

うめくめく秋の日とく窓の花

芭蕉

不うれう葉室とく月夜

芭蕉

ゆうかくめく秋の日とく窓の花

芭蕉

前句其事と見るまく月野水

芭蕉

続

嵩茶の内子みよ包尾の鰐のそり

耕吉

冬

ひいす起と紙鳩とびて

芭蕉

前句拂おはし併するわやかのうなり荷物コレハ  
萼アヒノ元旦モシラズアル心ヲオドロカレタル心ナリ

かけづみつけよ看經の中

野水

員

前句拂おはし天仙夢アヒ食あくらもの香荷物六人  
ヲ憚ル心モナキヲオドロカセルナリ

うちじわく、うのむの食心の湖干みよ

越人

前句拂おはし棚のこよどみ風日人コトスモヒ

芭蕉

猿

野と構工馬引ひけよほく葉す

芭蕉

冬月

もひ出よしひやゲトの塔の寺

芭蕉

冬月

りくちや根とくすみよ草の庵

芭蕉

月

我月いでよぬくにふれ

芭蕉

や

この名もすよかやなまくやともんをかくとひきとひき。  
よろがす原なり。これども五十音の阿彌えあり。一、持絆あり  
て、うの音相あざり。わざわざまじうすみよかきよかきよか  
しよの物なり。があつてすまますまどせとてすまく。コレニテ、休疑ナド  
ナルコトヲ

芭

のこりすよのこりばぢりや持もき

加生

これのこりすよのこりばぢりや持もき。ものくもくすまく  
やまとくすまく。もととくすまく。やまとくすまく。

芭

望乃のくすまくすまく。芭野と一あがく

コレハ見ルホドノ物ニテモナキヲ。ヒテ  
ヤトハウラヘタルニロナリ

芭

柳のすまくすまく。馬の曲

九郎

集 草ラヤをしの木種草モテヤ

芭蕉

ね それと疏りかくまし。上の領属シテあやむ。れとせう。四月  
かくまよけうす。スミテのうの幸とくま

カクシ これと幸ト形のからとす。誠とまくとす。まくと  
ロもくと。是と被のからとす。リムとす。あくまくとす。幸  
アキハラがくと。テクニとも俗書カクシあくと。幸と幸と  
幸とんの字とひらふと。幸用からとまくとくと。さのく  
とよ音とありくみ字カク。文字カクとくと。ひくにカクと  
カク。難波丹波錢蘭カク。にまくとく。幸とハレハリ幸  
ヒヒトリヒトリ。蟬カク。かくとく。幸とまく文字カクとくと  
五十音の外りをす。幸五十音の序アカ。ロと蘭あくとくと  
タマリアカ。刀も五十音の序アカ。ロと蘭あくとくと  
ますくの音。ロとリとすと音あるとくと。刀の音アカ  
のドド。ハムとす。うのウハ用カ。ハムとす。是五十音の序アカ  
カリ。うの序アカ。ハムとす。はあくとくと。幸音のうの音アカ。幸  
威えづれす。はあくとくと。幸音のうの音アカ。幸音のうの音アカ。幸  
このカリハムとく。國工これとくと。幸音のうの音アカ。幸  
物とくと別す。ハムとくと。幸音のうの音アカ。幸  
事ある付。ハムとくと。幸音のうの音アカ。幸音のうの音アカ。幸  
リスギム。幸音のうの音アカ。幸音のうの音アカ。幸  
幸音のうの音アカ。幸音のうの音アカ。幸音のうの音アカ。幸  
幸音のうの音アカ。幸音のうの音アカ。幸音のうの音アカ。幸

もする洞たるところだ。詠りかく。つづいては、ゆきの山を  
ましむあらじく。夜をもよおとわらし。これ皆上の洞下の洞の事より  
て屬する事なり。

○近昔より。あれからとて洞がたり。けがて即このり。こがすく上  
まし。ありとてうつてゐる事ばかり

拾 瓜はくる実があれどもすまし 芭蕉

○詠よみに「骨」の字「骨」へ「骨」などと云ふ。うりは等の洞ノ  
トの衣縫<sup>ツバ</sup>えどりある。縫の音の能あらむべからん。天井は  
だとうござ

○詠よみに「骨」の字「骨」へ「骨」などと云ふ。唐葉

日 山人ののひねくとぞれまづ 桃枝

日 魚をさ幸トモテ 滅うらき 大草

日 イヌアガリのぼそつゝ行方 死力

口

弱は郎ワガ門やと勢絆され 其角

口

弱は郎ワガ門やと勢絆され 其角

○禁属

イサムトハガウハスルナ。ソウハスルナト。制止スル心ナリ。ス  
ベテ訓モ禁モ今ノ俗言ヨリニレバ押柄ナルヤウナリ。  
サレドソレハ今ノ耳ニテキクガ故ナリ。古ハサルヲナリ。  
上下ニカ、ハラズイヒナリ。

5 上の辯りケリトヨツジ。シヌヌ。リタマタマキ。

アリテ。貪る者ナムニ御。ひきひきうやざむ多キ。アリ。  
トトコテガム。かく制止する。シテカム。下の事。シテカム。  
シテカム。アリ。シテ御。シテカム。本偶の  
事。アリ。安樂の事と。シテカム。お女。アリ。娼妓の事と  
アリ。アリ。安樂の事と。シテカム。裸木偶の事と。シテ  
アリ。娼妓の事と。シテカム。裸木偶の事と。シテ

猿 ちうさうこすれ御の事と。シテ

舊

難の事と。シテ御の事と。シテカム。アリ。シテ  
トトコテガム。シテ御の事と。シテカム。制止。シテカム。アリ。シテ

猿 陳立新。おつる枝。うたう。ア

周易

日 あくまうり。内。やまう。

芭蕉

荒 狐。アリ。アリ。アリ。アリ。

荷

岸 ケホ。萬の事。あらわす。村。アリ。次

智月

ヨリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。

芭蕉

日 ユリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。

芭蕉

猿 みくに。アリ。アリ。アリ。アリ。

千那

水 あらわす。アリ。アリ。アリ。アリ。

芭蕉

日 あらわす。アリ。アリ。アリ。アリ。

芭蕉

猿 あらわす。アリ。アリ。アリ。アリ。

芭蕉

ひく。信語にて。上うかがひて。その信語をひく。

続

ねりあふ。ああしる。秋の隕

馬鹿

ねりあふ。ああしる。秋の隕

身泉

のう。ああしる。秋の隕

のう。ああしる。秋の隕

のう。ああしる。秋の隕

お辭

ふ。信語にて。上うかがひて。その信語をひく。

お辭  
ふ。信語にて。上うかがひて。その信語をひく。

うち。まなび餘とまよひて。おれ。いつわす。お  
とよけあがめ。又。ゆかじ。かくじ。今。日々す。  
時々。かげたれ。れぞ。どぞ。うしめあす。どくつしづね。やえひつ  
ひき。漢文。勿莫の字のわれと。同。ひがひと。脚註。ひぎ  
ひぎ。れぞと。字あす。と。かくの。ひぎ。あらす。ふと  
ひぎ。う。引。と。だ。うは。く。お。向。わ。れ。え。ま。お。す。ひぎ  
かく。す。お。かく。ま。う。お。く。れ。お。ま。く。今。ま。お。く。ひぎ  
う。と。だ。う。ひ。ま。う。お。く。お。れ。お。ま。く。今。ま。お。く。ひぎ  
ひぎ。こ。お。く。の。ひ。ま。う。お。く。お。れ。お。ま。く。天。お。波。の。理。お  
お。今。裏例。と。お。く。て。お。く。お。れ。お。ま。く。天。お。波。の。理。お

お辭

カタニ人を待ちまく門のあぐりに候ふとひよ。さうへから  
タヌイ。弓の矢をもつておぐべ。かの弓をもつてお  
ひよ。アカバハ飽バト赤葉トヨサナクナリ。おとてておこつておこし。けむ  
がハ廿二ヨセテイヘルナリ。おとてておこつておこし。けむ  
手のまく。人の口をもつておこしておこす。おこらへる  
うそ。どうしてか制くや。とやくをあきらげて。まの正義

勾選

さうづかへ泥かわづく。うり芭

芭蕉

集

花と春よ帆をくの我友すよち

同

有齋

尼良人書が身ニカリケルトキ、テ枝かづるかむかばりのを。芭翁

芭翁

山上廻りすかのよがまかく

猿

崩したまの夜。あきよ。これ義

生義

集

五川の夜。はがねくとよる。

芭翁

春

ちねり唐の浦。よひや。

冬

かのうす。おはなす。うかがひ。うの道をかへくうよ例の。一川  
のす。おはなす。うかがひ。うの道をかへくうよ例の。一川  
のす。おはなす。うかがひ。うの道をかへくうよ例の。一川  
のす。おはなす。うかがひ。うの道をかへくうよ例の。一川  
のす。おはなす。うかがひ。うの道をかへくうよ例の。一川  
のす。おはなす。うかがひ。うの道をかへくうよ例の。一川  
のす。おはなす。うかがひ。うの道をかへくうよ例の。一川  
のす。おはなす。うかがひ。うの道をかへくうよ例の。一川

○諸侯皆曰子也。子也。子也。子也。子也。  
○諸侯皆曰子也。子也。子也。子也。子也。  
○諸侯皆曰子也。子也。子也。子也。子也。  
○諸侯皆曰子也。子也。子也。子也。子也。  
○諸侯皆曰子也。子也。子也。子也。子也。

